

< 1 > 2016 年度秋季研究発表会 (帝京大学にて 2016 年 10 月 29[土]に開催)における個人・共同研究発表の募集

1. 発表資格

- (1)日本マス・コミュニケーション学会会員であり、応募年度までの学会費を完納していること。
- (2)非会員の場合は、応募と同時に学会への入会申し込みをすること (入会方法については学会サイトを確認すること)。

※応募の採否、及び採用された場合の発表順序などについては、企画委員会にご一任願います。

2. 発表テーマ

本学会の趣旨に沿った分野の内容で、未発表のものに限ります。

3. 発表時間

原則として、個人研究発表は 30 分 (発表 20 分、質疑 10 分)、共同研究発表は 40 分 (発表 30 分、質疑 10 分) とします。ただし、発表本数を考慮して時間短縮を行う場合もあります。

4. 応募要領

日本マス・コミュニケーション学会のサイト <http://www.jmscom.org/> から「個人・共同研究発表への応募文書」(Word ファイル)をダウンロードして、同文書に記載されている 1～6 の項目すべてについて、【留意事項】を遵守して記入し、記入済みのファイルを電子メールに添付して送付してください。送付先と応募締切は次のとおりです。

※記入されていない項目があったり、【留意事項】が守られていない場合は、採択を不可とすることがありますのでご注意ください。

[送付先及び応募締切]

送付先 : 国際文献社 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email : mscom-post@bunken.co.jp (TEL 03-5937-0329)

応募締切 : 2016 年 7 月 7 日 (木) ※必着厳守 (受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください。)

※採否は、8 月末までにお知らせします。

5. 注意事項

研究発表は、研究が終了したものについて行うことを原則とします。ただし、継続中の研究の一部に関して発表する場合は、重要な知見が得られ、独立した研究として発表可能なものであることを条件とします。

- ・研究発表は、得られた知見を中心に行ってください。
- ・レジュメ、資料等は発表者が所定の部数を用意して、発表当日に会場に持参するか、あるいは定められた期日までに開催校の所定の部署へ送付してください。期日及び送付先、資料等の所定の部数は、後日採用のお知らせとともにご案内しますので、必ずご確認ください。なお、開催校・学会事務局ではコピーを受け付けないのでご注意ください。

研究発表会直前になっての視聴覚機器利用の新規申し込みは、開催校に対して大きな負担をかけることとなりますので、利用の有無は応募時点で確定してください。応募が採用された場合、「キーワード」と「発表要旨」を会報・プログラムに掲載します。

「研究発表論文集」のオンライン公開について

発表予定者の方々には口頭発表に先立ち「研究発表論文(予稿)」を作成していただき、それを pdf ファイル化して学会サイトで閲覧できるようにします。これは、①会員が発表内容を事前にある程度詳しく知ること、当日にどの発表を聴くかの選択や、会場での質疑・議論の活性化に資すること、②学会発表を、発表者が研究業績として業績一覧等により記載しやすく、また他の研究者にとっても引用しやすい形式にすること、の2点を目的としたものです。そのため、研究発表と一体化した資料であり、独立した「論文」としての研究業績ではありません。発表申込みが承認された方には「研究発表論文」作成依頼をお送りいたします。なにとぞご協力をお願いします。

- ・一つの研究発表会での個人・共同研究発表において、発表者として複数のエントリーをすることはご遠慮ください。

英語による口頭発表も受け付けます。その場合には発表要旨も英語で作成していただきます。英語による発表を希望する会員は、応募される前に上記の国際文献社日本マス・コミュニケーション学会会員業務係へその旨をメールでご連絡ください。

< 2 > 2016 年度秋季研究発表会（帝京大学にて 2016 年 10 月 29[土]に開催）におけるワークショップのテーマ案募集

ワークショップは結論を出すことが目的ではなく、参加者の自由な討論から、多角的な視点や知見を得ることを目的としています。したがって、今後発展が期待される課題や新しい問題を掘り起こすようなテーマでも結構です。

ワークショップの登壇者は、司会者 1、問題提起者 1 の 2 人体制を原則とします。討論者を設ける場合は、必要性、候補者の人選の理由を、テーマ案要旨のなかで簡潔に説明してください。その場合も、ワークショップの実施形態（一部制、二部制のどちらにするのか）、テーマ案の内容などを企画委員会で検討の上、討論者を設けずに、司会者と問題提起者による実施をお願いする場合があります。また、同様の点を検討の上、討論者のないテーマ案にも討論者を設けることを企画委員会からご提案する場合があります。

※テーマ案の応募件数、テーマ案の内容、開催校の事情を総合的に判断して、企画委員会が、一部制、二部制のどちらか、あるいはその併用を含めてワークショップのプログラムを編成しますので、100～150 分で実施可能なテーマ案をご提案ください。

1. 提案者資格

- (1)日本マス・コミュニケーション学会会員であること。

(2)応募の時点で、応募年度までの学会費を完納していること。

※応募の採否については、企画委員会にご一任願います。

2. テーマ

本学会の趣旨に沿ったものであること。

3. 応募要領

日本マス・コミュニケーション学会のサイト <http://www.jmscom.org/> から「ワークショップへの応募文書」(Word ファイル)をダウンロードして、同文書に記載されている1～6の項目すべてについて、【留意事項】を遵守して記入し、記入済みのファイルを電子メールに添付して送付してください。送付先と応募締切は次のとおりです。

※記入されていない項目があったり、【留意事項】が守られていない場合は、採択を不可とすることがありますのでご注意ください。

[送付先及び応募締切]

送付先 : 国際文献社 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email : mscom-post@bunken.co.jp (TEL 03-5937-0329)

応募締切 : 2016年7月7日(木) ※必着厳守(受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください。)

※採否は、8月末までにお知らせします。

4. 注意事項

採用されたテーマについて、「要旨」の加筆修正をお願いする場合があります。

レジュメ、資料等は、問題提起者・討論者が所定の部数を用意して当日会場に持参するか、あるいは定められた期日までに開催校の所定の部署に送付してください。期日及び送付先、資料等の所定の部数は、後日採用のお知らせとともにご案内しますので、必ずご確認ください。なお、開催校・学会事務局ではコピーを受け付けないのでご注意ください。

研究発表会直前になっての視聴覚機器利用の新規申し込みは、開催校に対して大きな負担をかけることとなりますので、利用の有無は応募時点で確定してください。

応募が採用された場合、「キーワード」と「テーマ案要旨」を会報・プログラムに掲載します。

現在、ワークショップの司会者・問題提起者・討論者は、日本マス・コミュニケーション学会会員に限らせていただいております。つきましては、非会員の方は入会手続きをしていただきますようお願いいたします。